

秘

大五

以後の支那の進

小冊子

講和ニ際シ支那其他ニ於ケル

排外的施設撤廢ニ關スル件

今後帝國ハ支那ニ對シ苟クモ武斷侵略的の色  
彩ヲ帶フル政策態度ヲ捨テ衷心親善共益ノ  
方途ヲ講シ且支那民心ノ歸嚮ニ察シ支那ノ正

當ナル欲求ハ日本ニ於テ率先提唱若ハ實行セム  
トスルノ議ハ畢竟世界ノ大勢ト支那將來ノ幸福

外務省

ト帝國國運ノ進展トヲ顧念シ帝國ノ國際  
的地位ニ一新生面ヲ啟カムトスルニ外ナラス然ルニ  
帝國ニシテ斯ク公正ナル方針ニ出ヅルト共ニ一面支  
那ニ對シ正當ニ反省ヲ求メ得ヘキ事項ハ手段ヲ  
盡シテ其ニ匡正ヲ圖ラシムルコト帝國ノ對支經濟  
的發展ノ為ニ必要ニシテ又帝國トシテモ之ヲ支那  
ニ促スニ何等躊躇スヘキ謂ヒナシ而シテ支那ノ反  
省ヲ求ムヘキ主タル事項ハ畢竟支那現下ノ排外

A general association of nations must be formed under specific  
covenants for the purpose of affording mutual guaranties of political  
independence and territorial integrity to great and small states alike.

REEL No. 1-0083

0222

的施設ヲ撤廢セシムルコト且支那ヲシテ進テ世  
界文化ノ趨勢ニ同化スヘキ方途ヲ講セシムルニ在リ  
之ヲ具體的ニ列擧スルハ大要左ノ如シ  
一 排外的施設ノ撤廢

其主タルモノヲ擧グルハ

(1) 鉄鑛暫行辦法等鉄鑛閉鎖主義ノ法規  
ヲ撤廢スルコト

大正四年以來支那政府ハ鉄鑛暫行辦法ヲ内

外務省

密制定ニ以テ鉄鑛國有ノ端ヲ啓クト共ニ鉄鑛  
ニ對スル外資ノ輸入ヲ杜絶セムコトヲ企圖シ爾來  
帝國政府ノ痛切ナル屢次ノ申入ヲ無視シ更ニ  
同暫行辦法ニ基ク細目ノ法規ヲ制定シ漸次  
其ノ實施ノ歩ヲ進メムトス然ルニ鉄鑛ノ閉鎖  
ハ支那自ラノ採掘ヲモ困難ナラシメ且條約上ノ  
義務ニ反シ殊ニ帝國ノ鉄工業ニ對シ到底堪ユヘカ  
ラサル甚大ノ影響ヲ與フルモノニ付支那政府ニ於テ

速ニ斯ル法規ヲ撤廢スルコト結局日支兩國ハ勿論  
他外國モ共ニ其ノ利益ニ浴スヘシ

(四)支那ノ内地ヲ開放シ外國人ノ居住營業ノ自  
由ヲ認ムルコト

支那ハ從來領土ヲ閉鎖シ特ニ開放セラレタル  
都市ニ限り外國人ノ居住營業ノ自由ヲ認ムル  
ニ過キス是レ畢竟時勢ノ歸嚮ト合致セサ  
ル旧思想ノ遺蹟ニシテ自他共ニ利スル所以ニテラス

外 務 省

内地ノ開放ハ正ニ列國ノ治外法權撤去ト相俟テ  
成ヘク速ニ支那政府ノ斷行スヘキ一方途ニ属  
ス

(ハ)外國人ニ土地所有權ヲ認ムルコト

支那民心ニハ領土權ト土地所有權トノ觀念  
明確ニ分離シ居ラサル結果今日ニ於テモ内地ニ  
於テハ勿論開放地ニ於テモ外國人ニ對シ土地所  
有權ヲ認ムルニ至ラス(但シ外國人ハ或ル一地方ニ限

リ永借権若ハ高租権ノ名義ノ下ニ所有權  
ニ等シキ實ヲ擧ケ居レル例アリ)

(ニ) 布教ノ自由ヲ認ムルコト

從來支那ハ耶蘇教徒ノ内地布教權ヲ認メ居  
レルモ佛教ノ布教ヲ拒ミ居レリ佛教ノ布教ハ  
日本政府ノ年来ノ主張ニ係ルモ未タ解決ヲ  
見ルニ至ラス純粹ニ人道ノ見地ヨリ布教セムト  
スルニ對シテハ支那政府ニ於テ否ムヘキ謂レナシト  
外務省  
思考ス

ニ社會改善ノ措置ヲ講スルコト

本件ハ特ニ説明ヲ俟タサル處ニ付大体ノ項目ヲ  
列擧スルニ止ムヘシ但シ此等ノ改善ニ付テハ日本  
其他ノ外國人ノ助力ニ俟ツモノ多カルヘシ

(イ) 教育制度ノ改善

(ロ) 司法制度並警察制度ノ刷新

(ハ) 法典ノ編纂

厘金制  
(二) 税制特ニ地租制度ノ整理

(ホ) 幣制制度ノ改良

(ハ) 度量衡制度ノ改良

(ト) 衛生設備ノ改善

右ノ外軍民分治(軍隊ノ整理ヲ含ム)中央地方關係ノ改革ノ如キ類ノ問題アルモ事純然タル内政問題ニ屬スルニ付茲ニ言及セス

外 務 省

又以上支那ニ於ケル排外的施設ヲ外ニスルモ又米國濠洲等ニ於ケル移民問題以外ニ於テモ我同胞ハ通商上經濟上種々排外的制限ヲ蒙リ居レル事例ニ乏モカラス例セハ印度支那ニ於ケル日佛通商航海條約適用問題ノ如キ又印度ニ於ケル日英通商條約ノ適用又ハ其ノ沿岸貿易禁止問題ノ如キ之ナリ而シテ斯ル排外的施設ハ今ヤ之ヲ撤廢セシムルニ好都合ナル新氣運ニ際會セムトスルニ至レル次第ニ付此ノ

機ヲ逸セサルコト緊要ナリ

(因ニ西比利亞開放問題ハ稍々趣ヲ異ニ

セルニヨリ別ニ之ヲ

~~東~~

身 書

(一) 日獨開戦ノ由来

日英同盟協約ノ豫期セル全般ノ利益ヲ防護シ獨逸ノ極東ニ於ケル侵畧的根據地ヲ一掃シ東洋永遠ノ平和ヲ確保セムカ為メナリ

(二) 帝國陸海軍ノ努力

(1) 作戰地帯ノ遠隔ト東亞ニ於ケル帝國ノ責務トハ我陸軍ノ歐洲出動ヲ不可能事トラシメシト雖或ハ青島ニ或ハ西比利亞ニ敵國勢力ヲ覆滅シ(2) 帝國海軍亦青島其他東洋ニ於ケル敵國艦隊ヲ殲滅シ更ニ遠ク地中海ニ策動シ且太平洋印度洋南洋ニ亘ル廣大ナル海面警備ノ任ニ當

リ更ニ亞米利加西海岸ニ於ケル作戰及露領沿海州方面ノ行動ニ從事シ我陸軍ト協同シテ東洋ノ靜謐ヲ保テ聯合與國ヲシテ東洋ニ心ヲ勞スルノ要ナカラシメ

(3) 其他艦艇兵器彈藥軍資ヲ供給シ聯合國軍事能力ノ發揮ニ多大ノ貢獻ヲ為セリ

(三) 對外根本方針

(1) 日英同盟(明治四十四年七月十三日第三回協約)ヲ經トシ日米提携ヲ絆トシ(参考明治四十一年十一月三十日太平洋)

ニ關スル覽書大正六年十一月二日支那ニ於ケル日本ノ特殊利益承認ニ關スル石井ヲシテ協定トノ協調ヲ尊重ス(單獨不講和ニ關スル倫敦宣言但シ米國ハ加入シ居ラス)聯合與國

(2) 支那ニ對シテハ其ノ獨立領土保全ヲ尊重シ



商業上ノ機會均等門戶開放主義ヲ恪守スル  
ト共ニ日支ノ眞實ナル諒解親善ヲ齎ラスヘキ  
共益公正ノ方途ヲ講シ東洋永遠ノ平和ヲ確保  
セムコトヲ期ス特ニ支那ノ康寧統一ノ速ニ回復セ  
ムコトハ支那ニ對シテ特殊緊切ナル利害關係ニア  
ル日本ノ最顧念スル所ナリ

(ハ) 西比利亞ニ對シテハ日本ハ露國ニ對スル旧來ノ  
隣誼ヲ重シ正義公正ノ見地ニ立脚シ露國國民  
ノ援助國權ノ恢復ニ力ヲ藉シ其ノ健全ナル復達  
ヲ希望スルト共ニ同國ノ領土保全ヲ尊重シ併テ内  
政ニ干渉セサルヘキ我已定方針ヲ恪守ス從テ露  
ニ帝國カ西比利亞ニ出兵セルモ素ヨリ獨勢東漸ニ  
備ヘ且チエツクスローバツク軍ヲ救援セムカ為メニ外

ナラス

(四) 殖民地統治殊ニ朝鮮ニ對スル方針  
帝國ノ新領土タル台湾樺太朝鮮等ニ對シテ  
ハ出業得ル限り固有ノ民俗習慣ヲ尊重シ且住  
民ヲシテ其ノ精神的物質的地位ヲ向上セシムル  
ニ努ムルト共ニ速ニ内地人同様ノ幸福ニ浴セシムコ  
トヲ圖リツツアリ

(五) 永久平和ノ確立

日本ハ其固有ノ民俗ニ見ルモ決シテ武ヲ好ク國  
ニアラス日本國民ハ血ヲ喜フノ民ニアラス日清日露  
日獨三大役ハ何レモ外國ノ脅威ニ基ク自衛ノ戰ニ  
外ナラス日本ハ今テヤ世界改造ノ議ニ矢ニ與シ其本  
業ノ國是ノ大道タル正義公正ヲ基礎トスル永久

平和ノ確立ニカラテ致サレトシク期ス

(六) 戦争ニヨル我直接ノ負担

陸軍出動兵數十二万、海軍従軍者六万八千、戦傷者五千、戦死者九百六十、戦費大正八年三月迄ノ豫算額約七億二千万圓外ニ臨時事件費約四億六千万圓、聯合國ノ為メ引受ケタル公債約九億圓、又敵國艦艇ノ為メ損害ヲ受ケタル船舶ハ三十一隻、十二万八千噸ナリ

現戦争ノ結果國家ヲ形成セントシツアル民族

(イ) 墺洪國地方

一、チエツク スロワツク

二、ユーゴ スラブ

三、ハンガリー

(ロ) 露西亞地方

四、ポーランド

五、フィンランド

六、ラトヴィヤ (レットニー)

(ハ) 小亞細亞地方

七、パレスティン (猶太共和國)

以上

「ウ井ルソシ」十四ヶ條

(一) 秘密外交ノ廢止

(二) 戰時平時ヲ問ハサル海洋ノ自由(英米一致セズ)

(三) 經濟的障壁撤廢及通商ノ均等

(四) 軍備制限

(五) 殖民地民族自決

(六) 露國ノ復興

(七) 白耳義ノ恢復

(八) 佛國境界問題特ニ「アルサス」「ローレーン」問題

(九) 伊太利國境問題

(十) 埃洪國問題

(十一) 巴爾幹問題

(十二) 土耳其問題

(十三) ポーランドノ獨立

(十四) 政治上ノ獨立及領土保全ノ保障ヲ目的トスル國際  
聯盟ノ組織

(參考「カイガー」引渡及戰費賠償問題ハ近來  
聯合國側特ニ英國輿論ノ要求タリ)

一、苟モ獨逸ニ對シ同情的意味ヲ含ム言語ハ絶對ニ之ヲ避クルコト獨逸ノ復興ヲ豫期スルカ如キ言説亦然リ

一、國際聯盟其他世界改造ノ議ニ關シ異人種ナル事實ニ胚胎スル列國ノ先天的差別觀念ニ付テハ最モ考慮ヲ要スル次第ニ付日支兩國カ同文同種ナル故ヲ以テ其ノ提携乃至聯結ノ必然

ナルヲ唱フルカ如キ言説ハ成ルヘリ之ヲ避クルコト

一、支那ニ對スル帝國從來ノ政策態度ニ關スル列國ノ疑惑反感已ニ根底深キニ方リ日本ハ支那ニ對シ優越ノ地位ヲ有スト云フカ如キ言説ヲ為スハ益々右ノ感觸ヲ刺戟スルノ傾向アルニ付可成之ヲ避クルコト

一、支那南方側ハ徐世昌ノ大總統タルヲ以テ非法國會ノ選舉ニ係ルモノトナシ未タ之ヲ承認セズ且和平會議モ事實南北對等ノ形ニテ開催ヲ見ルコトト相成タル次第アル處帝國ハ支那南北ノ

關係ニ付テハ甚ク機微ノ考慮ヲ要スル次第ニ  
付成ヘク此種ノ問題ニ觸レサルヲ可トスヘク又  
南方ハ帝國ヲ初メ各國何レモ未ク交戦團體  
乃至獨立政府ト認メ居ル次第ニアラサルヲ以  
テ之ヲ承認スルカ如キ言動ハ避クルコト  
一過去ニ於ケル日本ノ政策行動ヲ徒ラニ牽強  
附會シテ辯護スルカ如キ事ニ益ナキニ付之ヲ  
避クルコト